

Vol.178

2019
5
MAY

発行・編集

マッセ OSAKA

公益財団法人大阪府市町村振興協会
おおさか市町村職員研修研究センター
大阪府中央区大手前3丁目1番43号
大阪府新別館南館6階

TEL 06-6920-4565 FAX 06-6920-4561
HP: <http://www.masse.or.jp/>
E-mail: center-tr@masse.or.jp

本号では、2019年度のマッセOSAKA研修研究事業についてご紹介いたします。

また、マッセOSAKAホームページに最新情報を掲載しておりますので、併せてご覧ください。

◆ 研究事業の紹介 ◆

研究事業では、市町村独自の政策形成の推進を目指し、広域的あるいは将来的な課題についての調査・研究を進め、新たな行政課題や政策についての提言、情報の蓄積や受発信を行います。

○ 研究会

2019年度は、次の3つの研究会を実施します。詳細については、次号で紹介します。

- これからの自治体職員が身に付けるべき能力と研修体系研究会
～高度情報化社会に向けて～
- 「食」で考える大阪の持続可能な観光研究会
- 「地方自治法」・「地方公務員法」
eラーニングのWEB化及び新たな学びにつながる教材の配信研究会

○ 地方分権ゼミナール

2019年度も引き続き、4つの大学と連携して、より専門性の高い調査・研究を行います。

【大阪大学大学院法学研究科との連携】

受講生の希望により研究テーマを設定し、担当講師と10月から4か月間にわたる研究活動を行います。研究成果のプレゼンテーション発表と論文作成を通して発信力の向上を図ります。

【大阪学院大学大学院経済学研究科との連携】

公共政策に関する特定テーマを設定し、当センター前所長の齋藤慎教授をはじめ、各種分野の専門家による連続講座を通じて現実問題を考察することにより実践的能力の充実を目指します。

【大阪市立大学大学院都市経営研究科との連携】

希望する大テーマを1つ選択し、都市公共政策分野の第一人者をゲストスピーカーとしてお招きするワークショップ（3回程度）への参加を通して、公共政策が直面する課題解決のための研究を行います。

【和歌山大学大学院経済学研究科との連携】

公共政策に関する特定テーマについて研究・検討を行うことにより、実践的能力の向上を図ります。今年度は栄谷キャンパス、岸和田サテライトにおいて実施する予定です。

○ 研究紀要

市町村行政における喫緊課題を取り上げ、研究者による「政策提言論文集」として発行します。また、府内市町村職員から公募した論文の中から最優秀論文を掲載します。

マッセOSAKA公募論文・エッセイ募集！

自治体や行政に関する内容であれば、福祉、教育、環境、行財政などテーマは自由です。ふるってご応募ください。

応募締切：2019年9月27日(金) 必着

特別研修のご紹介

【政策形成実践研修】

岬町→藤井寺市→門真市、これまで3市町をモデルに取り組んできた「政策形成実践研修」は今年で4年目を迎えます。本研修はフィールドワークなどを通じてモデル団体の地域課題の解決に向けて、より実践的な政策立案について学ぶ目的で2016年度から実施しています。

2018年度のモデル団体は「門真市」、受講11名の大阪府内の市町村職員（宮本門真市長を囲む牧瀬講師、林センター所長、受講生）が6月に宮本門真市長から同市が抱える課題や今後の展望などをヒアリングさせていただき、10月の政策提言まで



5カ月間の研修に取り組みました。講師として関東学院大学法学部地域創生学科准教授の牧瀬稔先生から指導・助言を受け、2018年10月26日「政策提言プレゼンテーション」を開催し、宮本市長をはじめ幹部等職員の前で政策提言を行いました。その後、本提言の中から子育てブランクから再就職しようとする女性や、就業経験がない女性が就活支援する「かどママ就活サポート事業」が事業化されることになりました。



(宮本門真市長に政策提言書を手交)

(以下 研修のイメージ)

こんな方にオススメの内容です

- ☑ 政策の企画立案を現場でやってみたい方
- ☑ 課題発見・検討を現場でやってみたい方
- ☑ 今持っている知識・経験を現場で試したい方
- ☑ 所属団体を良くしたいと志を持っている方
- ☑ 他団体の職員とネットワークを広げたい方

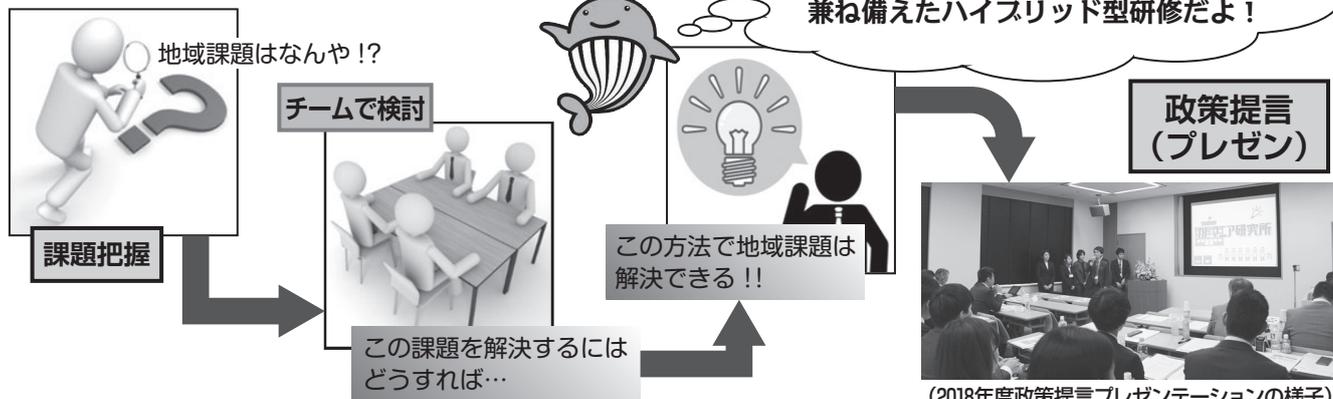
講師紹介



まきせ みのる
牧瀬 稔 氏 関東学院大学法学部准教授

専門は自治体政策学、地域政策、地方自治論、行政学で、市区町村のまちづくりや政策形成に広く関わっておられます。

人材育成と政策コンサルの両面を
兼ね備えたハイスリッド型研修だよ！



(2018年度政策提言プレゼンテーションの様子)

【研修情報見本市】



(昨年開催の様子 研修業者の模擬研修風景)

2019年度開催決定！今年の研修情報見本市は8月30日。本事業は、各団体の研修担当課の方を対象に、研修業者のプレゼンやおすすめの模擬研修を受けることで、今後の研修企画の参考にしていただくものです。毎年、府内外の自治体やシンクタンクなど多くの方々にご参加いただき、好評を得ています。この見本市を通して人事研修担当者同士の意見交換やネットワークの構築に活用いただいています。前回の参加者からいただいたアンケート結果やトレンドを参考に、より興味を持っていただける講師やテーマを選定し、より良い事業を目指しています。詳細は7月上旬頃、各市町村・各団体に開催通知と参加申込書をお送りさせていただきますので、奮ってご参加ください。

マッセ OSAKA 中期ビジョン策定!



(策 定 の 背 景)

マッセOSAKAが出来て早24年。平成から令和と、大阪府内市町村の職員の皆さまの研修研究機関として共に成長してまいりました。市町村を取り巻く環境が変化するなかで、これまで以上に、市町村職員の皆さまのスキルアップが今後の市町村の行政運営を左右する重要なファクターであることをあらためて認識しているところです。

一方で、当センターの母体、大阪府市町村振興協会の財政見通しによりますと、宝くじの収益減や低金利による貸付事業等の運用益の減少により、今後の抜本的な財政改善を視野に入れた事業運営が課題となっています。この度、マッセOSAKAは先5年の中期的な基本目標を定め、今後厳しい改革に耐えうる絵姿を市町村の皆さまと考えてまいりたいと思いますので、引き続き温かいご支援をお願いします。

今後の主な取組みの方針について (○内容・◇具体案)

研 修 事 業	○研修・研究区分体系の見直し	◇対象者・事業内容の明確化
	○実務研修の充実	◇ニーズに応じた科目・コース数の設定
	○システム (パソコン) 研修の見直し	◇アウトソーシング・負担金の導入
	○eラーニング教材の利便性向上	◇ウェブ配信への移行
	○継続的なスキルアップを図る仕掛け	◇「習熟度テスト」の実施等
研 究 事 業	○市町村職員の自主研究の支援	◇支援の拡充
	○経済団体やシンクタンクとの連携	◇知見を市町村へフィードバック
	○研究会の充実・強化	◇先進的な調査・研究課題の設定
他	○情報発信	◇SNSの活用等

退職職員紹介

2018年度末をもって退職した職員を紹介します。

平成31年3月末をもちまして公益財団法人大阪府市町村振興協会を定年退職いたしました。在職中は皆様にひとかたならぬお世話になり、厚く御礼申し上げます。

昭和54年に大阪府市長会に就職して、最初の仕事が市町村振興協会の設立事務を担当させていただきました。その後は市長会で部長会議 (当時は主担者会議) などの仕事をしておりましたが、平成23年に市長会、町村長会、町村議長会及び市町村振興協会の4団体の事務局統合が行われ、私自身も市町村振興協会へ転籍となりました。

平成28年度から定年退職までの3年間、市町村振興協会のメイン事業であるマッセOSAKAを担当させていただいたことは、とても光栄なことでした。今思えば私は市町村振興協会の仕事ではじまり市町村振興協会で卒業することができ感無量です。

平成30年2月には、マッセOSAKAの今後5年間の中期ビジョンが策定されましたが、マッセOSAKAには常に前向きで新しいことにもチャレンジして、大阪府内市町村職員のための広域的な研修研究機関として、さらなる成長を願っております。

本当にお世話になりありがとうございました。



いくた まこと
生田 誠

異動職員紹介

研修研究部では、お世話になりました、曾我です。平成26年度から5年間お世話になり、ありがとうございました。マッセOSAKAでは、研修担当者様との楽しい交流や、講師の皆様とのすばらしい出会い、そしてなにより向上心溢れる研修研究の参加者から、刺激をいただき（過ぎ）ましたこと本当に感謝しています。この経験を、次の職場で活かしていきたいと思えます。4月からは総務企画部で、会計や市長会議の運営、施設管理の担当として皆様に関われることを楽しみにしております。



そが なつぎ
曾我 夏樹

【4月1日付】総務企画部財務グループ総括
(前) 研修研究部 主幹



さきの まさみ
咲野 雅美

事務補助員なのに厚かましくも登場の咲野です。実は、4月から正職員となり、総務企画部に配属となりました。

2年半、皆さまとの出会いの中で、色々と成長させていただきました。本当にありがとうございました。部署は違いますが、同じ事務所に居ますので、気軽にお声をかけていただくと嬉しいです。

【4月1日付】採用・総務企画部総務グループ主事
(前) 事務補助員 (研修研究部)

ご縁をいただいて、このたび、3年振りに研修研究部に戻ってまいりました。林所長のもとで、マッセOSAKA中期ビジョンの推進、具体化などの与えられた仕事に邁進したいと思っています。イノベーション力や創意工夫が求められるといわれる現代社会において、様々な課題に対応していくための研修・研究事業の提案、情報発信のほか、この機会に困難と思われる自らの能力開発にも再チャレンジしたいと思っています。「知識と知恵」・「マッセOSAKAと市町村・住民」の好循環を意識しながら、頑張りますので、よろしくお願ひします。



つじ やすあき
辻 康之

【4月1日付】事務局次長兼研修研究部長
(前) 事務局次長兼総務企画部長



にしお みつひろ
西尾 光弘

4月の人事異動により研修研究部に配属になりました西尾です。市町村振興協会の総務・財務部局については何度か配属はありましたが、今回、研修研究部には初めての配属となり、身が引き締まる思いです。業務を行ううえで、皆様に色々とお迷惑をお掛けする事も有るかと思いますが、研修研究事業の発展において、与えられた仕事をしっかりとこなし、ご指導を頂きながら一から勉強し、努力して参りたいと思っておりますので、何卒、宜しくお願ひ致します。

【4月1日付】研修研究部 主幹
(前) 自治振興部町村振興グループ総括

帰任職員紹介

2018年度末をもって派遣期間を終え、派遣元へ帰任した職員を紹介します。

平成28年度から3年間、皆さまには大変お世話になりました。公務員として児童福祉の部署しか経験していなかった私にとって、この3年間は業務を通して大きく視野を広げることができ、貴重な期間となりました。そして何より、講師の方々や大阪府内を始め、全国の市町村職員の方々、民間企業の方々などと交流を深められたことが、一番の財産になりました。（頂戴した名刺は1,000枚以上！本当にかけがえのない財産です。）また、個性溢れる派遣職員やプロパー職員の皆さまと、冗談を言い合い働けたことは本当に楽しい日々で良い思い出です。帰任後は、行政経営部の企画財政室へ配属になりました。主に、地方創生に係る企画調整を担当しており、慌ただしくも充実した日々を過ごしています。この3年間で培ったご縁を大切に、引き続き楽しみながら頑張りたいと思います！



あおやなぎ しばかず
青柳 成和
(吹田市へ帰任)

最後になりましたが、在任中お世話になりました全ての方々に厚く御礼申し上げます。

そして、今後ともどうぞよろしくお願いいたします！

新派遣職員紹介

2019年4月からマッセOSAKAの新戦力となった職員を紹介します。



うまがみ かほ
馬上 夏穂
(門真市から派遣)

この度、門真市から派遣で参りました馬上と申します。

平成27年度に入庁し、今年で5年目です。門真市では国民健康保険料の業務に携わっていました。

マッセOSAKAへの派遣の話をいただいたときは、楽しみと不安な気持ちがありました。しかし、新たなことに挑戦し、さらに成長したいと思い、行くことを決意しました。

まだ1か月程しか経っていませんが、マッセOSAKAは和気あいあいとした楽しい雰囲気、いろいろな人との関わりも多く、学ぶことがたくさんあるなと感じています。

2年間、多くのことを吸収し、さらに成長できるように頑張りたいと思いますので、みなさまよろしくよろしくお願いいたします。



研修研究部（マッセOSAKA）のご紹介



所長の**林宏昭**です。まだ就任8カ月で初心者マークがついていますが、どうぞよろしく願いいたします。マッセOSAKAにとって開設24年目となる今年度が、初めての取り組みである中期ビジョンのスタートの年になります。メンバーとともに、これまでに蓄積してきたノウハウを活かしながら、研修内容の向上と研究の発展を目指してまいります。

研修研究部長の**辻**です。自らの向上を求めながら、「あせらず、あわてず、あきらめず」、そして「うらたえず」をモットーに仕事に励みます。セミナー等の企画にも積極的に関わりますので、多数のご参加をお願いします。

3年目を迎えました!! 泉南市から派遣の**中堂**です。ついに最古参になってしまいました…。最後の1年間は、これまで以上に、自由に楽しく過ごしたいと思っております! まだまだ、ネットワーク広げていきマッセOSAKA!

門真市より派遣の**馬上**です。今年度は、私自身もたくさんの研修やセミナーに参加し、自分の幅を広げ、マッセOSAKAの研修をより充実させられるよう頑張りたいと思っております! ぜひよろしく願いいたします!

マッセ臨時職員

加古 マッセOSAKA 1年目でまだまだわからないことが多くご迷惑おかけしていますが1日も早くサポートできるように頑張りたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

中畑 今年の4月からの一年目で、皆様の研修・研究の準備をしながら、実は自分もスキルアップしているという期待と希望を持ちつつ、頑張っています。よろしく願いいたします。

乾です。以前東北に出張した際「カンさん」と呼ばれたことがありますが「イヌイ」です。自由民権運動の先駆、板垣退助の前姓が乾だとか。もといマッセOSAKAはこの度「中期ビジョン」を策定しました。私共振興協会はサマーとハロウィンの2つのジャンボ宝くじの売上げを主な財源として事業実施していますが、財政厳しい折、マッセOSAKAの研修研究事業も今後持続可能な事業運営への変革が求められることが予想されます。中期ビジョンは万能薬ではありませんが、市町村の皆様と共に成長してきたマッセOSAKA、今後しなやかな脱皮を遂げるかもしれませんが、「そこにあり続ける」ことがまずもっての使命だとあらためて心に刻み、年度初めと挨拶とさせていただきます。合掌

研修研究部に初めて配属になりました**西尾**です。早くも1か月が経ちましたが、部の職員としっかりコミュニケーションを取って頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

富田林市から派遣の**村上**です。マッセOSAKAでは2年目を迎え、派遣期間も折り返し、昨年以上に頑張りたいと思っております!!今年度もマッセOSAKAをよろしく願いいたします!

「いつも昨日より幸せに」をモットーに生きている**立田**です。そのためには、自分が幸せになり、相手に幸せになってもらうことが重要と思っています。それは大きな話にすると、組織マネジメントになりますが…そんな大きな話でなくとも、いつもの挨拶、楽しい話、実のある話があればと思っています。そんなお話を、マッセOSAKA、研究生、研修生としたいです。色々教えてください。

今号は
西尾&馬上 ですよ!

(西尾) 初めてつづやくことになりました西尾です。先日のスタッフ会議で10連休の計画についてスタッフに確認したところ、充実した連休を楽しむ研修スタッフがほとんどでした。やっぱり若手職員は活発的で、行動力があるので、その原動力が研修事業等に生かされていると思います。今回の連休で皆様方におかれましては、英気を養い、連休明けからの仕事に活力をつけて、どしどしマッセの研修受講申し込みをお待ちしております。

(馬上) 初めまして! 馬上です。これを書いているのは4月なので、10連休が待ち遠しくて仕方ありません! 旅行が好きなのですが、連休中は茨城県のひたち海浜公園に「ネモフィラ」という綺麗な青い花を見に行くことを計画中です。みなさま、国内・国外に関わらず、おすすめの旅行先があればぜひ教えてください!

ネットワーク5月号が出る頃には、連休も終わり、6月からはマッセの研修が本格的に始まっていきます。みなさま、ぜひたくさんのご参加お待ちしております。



復活連載コーナー

約20年の時空を超え、修業僧リボーン！

私たち 陽気な

松本と東京に行ってきた！の巻

研修研究部 中堂 庄太

修業僧

～第5回～

2019年度研修の企画会議が終わって一息ついた頃、気分転換で一人旅へ…。と言うのは冗談で、次年度の企画のネタ探しに、さっそく動き出しました！

1日目は長野県松本市で時事通信社「自治体実務セミナー『自治体職員の働き方を変革するRPA』に参加、総務省による基調講演のほか、京都府や熊本県宇城市による先進事例紹介を聴きました。ポイントは大きく分けて3つです！①日々の事務作業におけるパソコン操作を自動化するRPAは、地方自治体の業務にも適用できる。②RPAは、これまで手作業でしかできないと考えられていた業務にも適用でき、職員の労働時間削減や人為的ミスの削減といった効果が期待できる。③削減した時間やコストを住民サービスの向上に充てることができる。RPAが本格的に導入されたら、人間はより創造的な政策立案に集中できることとなりますね！！

2日目は始発の特急あずさ2号（古っ）で一路東京へ。地域活性化センター「SNSを使ったプロモーションセミナーvol.2」に参加しました。SNS（主にFacebook、Instagram）による情報発信が脚光を浴び、新たな地域資源の魅力発掘のため、自治体でSNSの利用が進む一方、訴求性が高い写真等の提供に至っていないことが多いとのこと。“映える”写真の方程式は、『差異（＝世界的な珍しさ）』×『理解（＝共感を生む写真やキャプション）』＝『価値』と整理されます。

右の写真は、私の出身地で派遣元の泉南市の海辺の写真ですが、例えばこんな感じでキャプションを付けてみました。



夕日百選、そして恋人の聖地に佇む、たこつぼ達。
 弥生時代から続きたこつぼ漁の聖地・泉南で
 あなたも、居心地の良い場所を見つけませんか？

いかがでしたか？気になったあなたは、ぜひ泉南市へ出かけてみてくださいね♪

よせやまばなし

今年度もこつぽう感で企画が練られていきます…

全員 「いや、今ブレンディングしてるやん。」

D 「私の意見は、聞いてくれないのですか？」

C 「焼き肉やったらな！〇〇がおススメやで！ー
 回行きたいと思ってるん。」

A 「……………」

G 「いいね。でも、Aさんオススメのところは嫌。」

A 「ところで、Gさん、Dさんも来たことだし、お昼にお食事会をしたいのですが。焼肉屋はどうでしょうか？」

G 「大丈夫だ。俺が引き継いで、マッセを、まとめていく。」

F 「今年3年目ですが、こんなもんですよ。」

E 「研修研究部は、初めてだけど、みんなこんな感じなの？話かみ合ってるの？」

A 「食といえは、ガストロノミーツーリズムやなーその極致は、釣りやで、観光と食…。」

D 「私は、今年門真市から派遣ですが…一人でご飯は食べにいけないのです。」

C 「食といえは、谷町四丁目の〇〇がおススメやでー行ったことないけど。他には、梅田の〇〇がおススメやでーこも行ったことないけどな！」

B 「えっと、『高度情報化を見据えた能力研究会』、『食と観光研究会』、『地自法・地公法のeラーニング研究会』、それと『政策のスペシャリストに学ぶ～自分の強みを地域づくりの政策立案に活かす～』だっけ？」

A B A 「今年度もはしまったね〜」
 「そうだね〜」
 「今年の新企画は、研究会3本に連続講座だねー盛りだくさんだねー政策形成実践研修もやるしねー」



目まぐるしく変化する時代の中で、地方行政、自治体職員が目指すべき方向性について、学識者・行政経験者などの著名人に、政策提言を頂きます。

【第18回】

立正大学経済学部 特任教授

鈴木 輝隆 氏



自由で豊かな妄想から魅力あるまちづくり

1. 自由で豊かな妄想からコンテンツが生まれる

世界は工業化社会から情報化社会や流動社会へ、今年から始まった移動通信システム5Gの急速な技術革新などにより、激動の時代を迎えようとしている。ネット社会の情報が高速度で大容量（速度100倍、容量1,000倍）となり、自由で豊かな発想と表現から生まれるコンテンツは現実の地域社会に大きな影響を及ぼすだろう。

コンテンツとは、放送やネット社会で提供される動画・音声・テキストなどの情報の内容で、電話さえ「モバイルコンテンツ」の一つになった。映画や音楽、アニメ、ゲーム、漫画、キャラクターなどの「デジタルコンテンツ」は全盛期を迎え、日本のコンテンツ市場規模は12兆円となっている。テレビも地上デジタル放送への移行によりコンテンツと呼ばれるようになり、スピード感のある情報発信のニュースコンテンツやソーシャルメディアコンテンツなどは「Webコンテンツ」と分類され、いまやネット社会はリアル社会や人の行動に大きな影響を与え、ネット社会なしでは生きられなくなっている。

社会心理学者のリップマンは『世論』に書いているが、「どんな人でも、自分が経験したことの無い出来事については、自分の思い描いているそのイメージが喚起する感情しか持つことはできない」という言葉にうなずかざるを得ない。

私は30年以上前から、地域にデザインをプラスすることにより、好感度の高いイメージを作り出し、地域のブランド化を図ることで地域経済を創出する取り組

みを行ってきた。地域を良質のデザインによって新鮮かつ豊かに表現し、価値を捏造するがごとく創造し、ときには妄想から地域の現実社会を飛躍させる方法だ。極端に言えば、意図的に表現されたまちのイメージにより人の心や記憶に残ることによって、地域は存在できるのであって、認知されないなら存在しないも同然である。まちは好ましいイメージで認知されると、人の気持ちも地域の現実も大きく変化させるのだ。

2. 移動の時代とコンテンツ

情報化社会の進歩はあまりにもスピードが速く、いままでの前例やモデルが役に立たない。こうしたときは固定概念にとらわれず、時代の変化を受け止め、直感を働かせるしかない。例えば、現在、日本各地で日常的に外国人旅行者、留学生、研修生を頻繁に見るようになった。わずか10年前は800万人だった訪日外国人旅行者数は、2018年には3,119万人となり、今後も6,000～8,000万人と拡大傾向にある。2022年には延べ宿泊者数は外国人が日本人より多くなり逆転するようだ。観光消費額は、2030年には6割が外国人観光客によるものとなり、その経済効果の総額は15兆円を目指している。地方の経済を支えるのは日本人だけでなく、世界の人たちである。

情報化の進歩と合一して、大移動社会が生まれた。世界の人々は日本だけでなく世界中を自由に移動するので、世界の観光産業はGDP総額の10%を超え、雇用の10%近くを占めるようになった。

観光の拡大は情報の発展だけでなく、人やモノの高速大量輸送手段と情報システムのサービス化が進んだことにある。人の移動についても、バス、電車、レンタカー、タクシー、レンタサイクル、飛行機などあらゆる交通手段がニーズに合わせてパッケージ化され、定額で提供される次世代交通のMaaSなどはフィンランドやスイスですでに実用実験が行われている。今後、5Gの普及により移動通信は、「超高速」「超大容量」「超大量接続」「超低遅延」となり、スムーズな動画の視聴や車や農耕機などの自動運転、遠隔地での医療や教育、会議も可能となる。こうした通信の社会基盤整備は新しいコンテンツ産業を誕生させ、世界の産業構造を変えていく。

観光産業もポスト工業化の地域産業ビジョンとなり、コンテンツ産業となった。世界的な観光地となり、新しい雇用や産業を創出するためには、日本はもっと固定概念から自由になり地域の魅力を編集・デザインし、良質なコンテンツを創造することが必要だろう。飛躍的な妄想を生む土壌をどう作るか、それがこれからの

まちづくりの課題となる。

さらに、世界中でほぼ同じような商品が作られ安価に販売できるのは、急速に進むAIやロボット、ITの技術革新によりモノの生産が限界費用ゼロに近づいてきたからである。工業製品だけではなく農林水産物の生産にも同じように活用される時代が来ている。また5Gの実現は一次産業や二次産業、三次産業を大融合させ、人手不足や重労働から解放し、新しいビジネスモデルを創出させる。自由で豊かな発想があれば、すぐに実現できてしまうスピードある恐ろしい時代だ。

3. 世界のコンテンツづくりに挑戦する社会実験

激動の時代は何か起きてもおかしくない。未来はどうなるかわからないから、心配ばかりしていても仕方がない。不安より希望をもって、地域の現実を面白いじゃないかと積極果敢に楽しみ、そのことを情報価値としてコンテンツ化したほうがいい。どこのまちも自然、気候、歴史、伝統文化、景観、まち並み、食、工芸品などを地域資源として磨き上げ、良質なコンテンツにできたなら、世界の人に必ず発見されるはずだ。

自由で豊かな妄想を生み出す環境づくりから新しいコンテンツを次々生み出すことができるまちこそ、これからの理想の土地で、地域のためだけでなく世界の文明・文化価値を創造することにも貢献できるのではない。

日本の戦後復興は工業化社会を実現することで経済的に成り立ち、工業化や都市化が若い人材を都会に引き寄せた。少子高齢化の時代となり、地域を担う人材がいなくなり、安く使える人材として海外研修生の枠を拡大し労働力を確保している。日本の若者をパートや契約社員など非正規で雇用し、海外からの研修生や留学生も安いお金で雇用するだけで、彼らの自己実現や人間としての成長を考えず、結果、次世代の人材を育ててこなかった。人を幸せにするために仕事をするのであり、仕事の効率向上のために人を使い捨てにすることは本末転倒である。人手が足りなくなったら、安い労働力を海外から調達すればいいという身勝手な考え方、外国人を安い労働者と考える時代はやがて終わる。

例えば、写真の町・北海道東川町では、全国唯一の町立日本語学校を活かした多様な人材のプラットフォームづくりから起業家等を育てようとしている。それは、東川町を舞台にして、留学生が自分の個性や才能、履歴を活かし、世界の人々が認めるまちのオリジナルコンテンツを作る社会実験でもある。全国で唯一水道のないまちで、汚染されていない自然や食、質の高い写真文化や家具づくり、景観に配慮した住宅、本の文化をもっている。それらを活かし、世界から敬愛される魅力

あるまちの実現を目指し、住民や留学生や研修生ら外国人と、地方の多様な資源をさまざまな視点から編集やデザインをできる人、志ある企業や投資家、実業家、会計士、NPOなどの協力を得て、シェアオフィスなどを設けたプラットフォームを創設しようとしているのだ。つながりの中で知恵は生まれ価値は創造される。

最近、国はこれまでとは違った政策や財源を誕生させ、地域にはない人材や方法論の導入も可能にしている。未来へ向けて自治体が地域を変えていくには、時代を変革させる推進力のある最新のメディア、デジタル、モバイル、ソーシャルをどう活かしていくか、考えなくてはいけない。そのために国の財源を活用し、ミッションやビジョンを明確にし、常識を超えて、価値を創造できる人材や組織と組んでネットワークを築き、挑戦的なアイデアや行動力を持った人材が活躍できるような雇用形態や組織を育てることだ。平均値を求めているのは民主主義的かもしれないが新しい時代を切り開くことはできない。時代の大きな変化をチャンスと捉え、失敗を恐れず新しいビジネスモデルを作ることだ。

日本の利益だけを考えても日本のためにも、世界のためにもならない。東川町のように、国内外を問わず、お互いに自己実現を目指す中で助け合い、世界のためにできるパブリックマインドを身に着け、イメージという妄想から自己実現を通して、現実の社会を変えるのである。

私は地域の素材を活かし、良質なコンテンツを作り出せる人材を資源家と名付けた。東川町の社会的実験をお手伝いしているが、個々人の自由で豊かな感性から自己実現する妄想思考と、自治体の豊かな地域経営を目指すビジョン思考をもった、ワールドクラスの資源家を育てたいと、私の妄想も膨らむ。

◇ 執筆者Profile ◇

立正大学経済学部特任教授(地域経営論、ローカルデザイン論)。持続可能な地域を創造するために、地域と才能ある人たちをネットワークし、自治力や文化力、経済力を高める活動をしている。

松屋銀座「みつばち先生鈴木輝隆展」(2012年日本デザインコミティ)の開催、東京都八王子市「TAKAO 599 MUSEUM」の整備・運営プロデュース、北海道清里町「じゃがいも焼酎・北海道清里」の商品開発、愛媛県内子町石畳地区の地域経営、日本遺産人吉球磨(熊本県)の総合プロデュース、北海道東川町や北竜町の地域力創造プロデュースなど。

著書は「田舎意匠帳(ろーかるでざいんのおと)」、「観光振興実務講座」、「みつばち鈴木先生-ローカルデザインと人のつながり」他多数。



本コーナーは、日常生活をイキイキと活動している現職の行政関係者を取り上げ、どのように仕事に活かしているかをお披露目していただくコーナーです。執筆者は、マッセOSAKAの職員が研修や交流会などで出会った方や、マッセOSAKAに派遣されていた先輩方をお願いしております。

第12回は、富田林市生涯学習部生涯学習課 植村 耕治さんのこぼれ話です！

楽しみながら行政と地域をつなぐ

富田林市生涯学習部生涯学習課 植村 耕治さん

富田林市にある江戸時代から続く古い町並みで「映画祭をしよう!」という、地域の人たちが立ち上げた「シネマプラス映画祭実行委員会」に参画しています。

「富田林寺内町（じないまち）」は、大阪府で唯一の重要伝統的建造物群保存地区に選定された約13haのエリアに約200軒の古民家が連なる町並みです。

江戸時代以降、寺内町は地域の賑わいの中心にあり、まちには人があふれ昭和の中頃には寺内町周辺に映画館が5軒あって、世代を超えた娯楽や文化を学ぶ場となっていました。

今はもう、昔ほどの活気も映画館もありませんが、寺内町に古くから住んでいる人や、新しく移り住んできたお店のオーナー、市職員などの中から映画好きの者が集まり、世代を超えて、みんなで見る映画の楽しさや、映画を通して寺内町という空間の魅力を知ってもらいたいと、映画祭を開催しています。

30年度は寺内町にある酒蔵、お寺、古民家などで、映画の上映と映画にまつわる講演会やワークショップをおこない、本年度は11月16日(土)・17日(日)に開催する予定です。また、3月からはイベントとして、毎月一度、ドキュメンタリー映画を中心に「月いち寺内町シネマプラス」を小さな古民家で開催しています。

まちの中に映画を楽しむ小さな空間があることで、新しい交流が生まれ富田林寺内町の知名度向上につながればと思っています。



「月いち寺内町シネマプラス」の会場



上映中の様子。古民家でスクリーンに映した映画を見るのは趣があります。

研修★

日本縦断!

全国の特徴ある職員研修を随時紹介します。

第15回

三重県市町総合事務組合



はじめに

三重県市町総合事務組合は、三重県内全29市町の研修事業をはじめとする各種事業を共同処理する特別地方公共団体です。その内、研修事業については、平成11年に、当時の三重県自治会館組合の事務として市町村職員ならびに議員を対象とした共同研修としてスタートし、平成24年5月の三重県市町職員退職手当組合との統合を経て、現在に至っています。

研修事業の事務体制は、事務局長以下6名のプロパー職員で構成しており、今年度は約41講座の研修を実施するとともに、昨年度に引き続いて研修事業の見直しを行う予定です。



事務局職員

研修について

本組合が実施する研修のうち、特徴的、あるいは重要と捉えるものをいくつかご紹介します。

まず、新規採用職員を対象にした「ワンステップ研修」のうち、年度当初に行う「前期Ⅰ（コミュニケーション入門）」は、「自治体職員としての、人との出会い・ふれあいの心構えとそのポイント」をテーマに取り上げています。

名刺の渡し方や電話応対などのテクニックも重要ですが、この研修では、「コミュニケーションには必ず相手がある」ことを基本に、視線や態度などの言葉にならない部分も聞き手である相手の受ける印象に大きな影響を与えること、また相手に投げかける一言の重みにも留意することなど、人と接する際の心構えを学ぶことに重点を置いた内容としています。

次に、階層を問わず希望者が受講するパワーアップ研修の一つである「話し方講座」は、現役のアナウンサーを講師に迎え、演習の中で受講者1人1人の話し方をビデオ撮影し、その映像を受講者全員で振り返りながら、受講者自身の改善すべき点、伸ばすべき長所を磨きます。

最後に、特別セミナーの一つとして、職員対象の「不当要求対策研修」を実施しています。この研修は、午前の部を、ハードクレームを含めた行政に対するクレームについての考え方と対処法を学ぶ枠とし、午後の部は「不当要求防止責任者講習」と位置付け、同講習を運営する暴力追放三重県民センターのご協力をいただいて、暴力団による不当な要求の実態を学ぶとともに、冷静かつ適切に対処する方法を学びます。

本組合では、今後も市町等のニーズを把握するとともに社会の情勢にも目を向け、随時見直しを図りながら充実した研修事業を実施し、魅力あふれる地域づくりを担う自治体職員の育成を目指します。

さいごに

三重県は、伊勢神宮や伊賀忍者に代表される観光地や歴史、また大台ヶ原や御在所岳などの山岳地から、志摩のリアス式海岸や熊野灘の七里御浜などの沿岸部まで、多様な自然にあふれています。

中でも、本組合の所在地である津市は、古くは「安濃津」として「日本三津」の一つに数えられ、また「日本三大観音」の一つである観音寺があり、日本最初の五音順の国語辞典と言われる「和訓栞」を著した谷川土清の出身地でもあります。

多くの歴史と豊かな自然が息づく三重県に、是非お越しく下さい。



津城



津観音



谷川土清旧宅

シリーズ
バトンタッチ
第176回

研修担当課の皆さんが、次々に仲間を紹介し、ネットワークを広げます。
今回は、大阪狭山市の田村さんからのご紹介で…



八尾市総務部人事課 辻本 祐佳 さん（1列目右端）

◆2019年度採用の皆さんと大嶋課長補佐（2列目左端）と一緒に

大阪狭山市の田村さんよりバトンを受けました八尾市人事課の辻本と申します。人事課に配属されて現在7年目になります。

さて、4月から、58名の新規採用職員が採用されました。新規採用職員にとっては、不安と期待が入り混じるスタートだと思いますが、挑戦することを忘れず、1日も早く活躍できるようサポートしていきたいと思っています。

また、本市の特色のある研修として、平成29年度より「地域まちづくり研修」を実施しています。

新規採用職員と先輩職員がペアとなり、地域へ出向して、定例会議やイベントに参加し、地域住民と接しながら、地域活動の実態や課題を把握し、課題発見力や解決力を身に付けることを目的とした研修です。

地域へ出る機会のない職員も、今後、異動で別の所属に配属されて地域との関わりが出てくる可能性もあるため、生活者の視点を意識し、市民ニーズを感じ取りながら、自らの業務に活かすことができる貴重な機会になっています。

これまでの2年間の取り組みに加え、引き続き、少しでも新たな気づきが得られる研修を企画できるよう頑張りたいと思います。

今回は、東大阪市の西村さんにバトンをお渡しさせていただきました。西村さんどうぞよろしくをお願いします。

次回は

【東大阪市の西村さん】

にバトンタッチ！

お知らせしマッセ

◆クールビズ期間に入りました

マッセOSAKAでは5月1日から10月31日までクールビズ（ノーネクタイ、ノー上着）期間となります。ご理解とご協力をお願いいたします。もちろん、研修参加者の方々もクールビズでお越しく下さい！

◆食マッセMAPを更新しました

マッセOSAKAでは、研修参加者の方々には有意義に休憩時間を過ごしていただけるよう、ランチマップをご用意しております。

この度、大幅に掲載店舗数を拡大しましたので、奮って研修にご参加ください！！

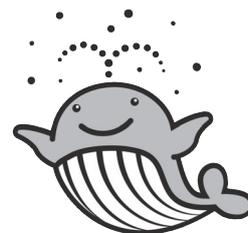
◆研究会報告書ができました

「地域通貨を導入した地方創生研究会」「働き方改革を踏まえた組織マネジメント研究会」の報告書ができました。5階休憩エリアに陳列しておりますので、ご自由にお持ち帰りください。

もうすぐ

サマージャンボ宝くじの季節です！

サマージャンボ宝くじの収益金は、公共事業をはじめ、少子・高齢化対策、地域情報化対策などの事業に活用されており、市町村の明るく住み良いまちづくりに使われています。ぜひ大阪府内の宝くじ売り場でお買い求めください。



「宝くじ★買うんやったら☆大阪で！」